1人で歩いて学校に行けるように勉強

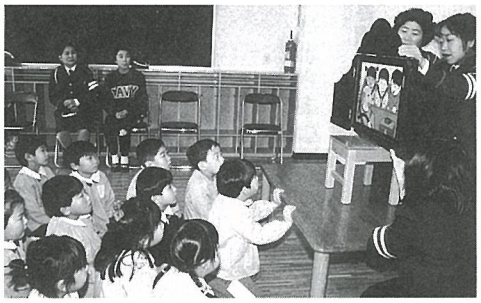
―ペコちゃんクラブ―

4月からピカピカの1年生になる各保育園・幼稚園の卒園児が、1人で歩いて学校に行けるようにと交通ルールを学びました。

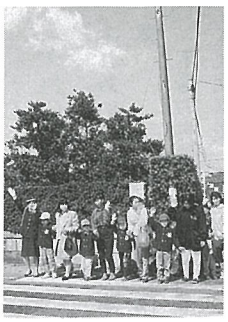
3月1日には、日吉保育園児35人、3月2日は中央保育園、幼稚園児61人、3月9日は白浜保育園児24人が駐在さん、八日市場警察署の安藤婦警さんと勉強しました。道路の歩き方や信号の見方、横断歩道の渡り方についてのお話を聞きました。中央保育園、幼稚園では勉強する前に1人で「道路を渡る時は、ちょっと止まって右・左・右、車が止まったら渡ります。」とはっきり言えたわたなべつよしくんに婦警さんもびっくりしていました。みんなから大きな拍手をもらいました。

また、交通安全協会婦人部のみなさんによる紙芝居「悪魔くん」交通ルールを守らない人を仲間にしようとするが、みんな交通ルールを守る人たちで仲間が見つからず違う町へ行くというストリーを園児たちは食い入るように見つめていました。

その後、外に出て信号機を見て実際に渡りました。



▶巧みな話術で交通ルールを教える交通安全協会婦人部のみなさん（中央保育園・幼稚園）



▶お母さんと一緒に道路の渡り方を勉強（白浜保育園）

▼花束を手に会場をあとにする卒業生

思い出いっぱい涙の卒業

ピンクの花を胸に151人が3月15日中学校の学び舎を巣立ちました。

授与式では、卒業生を代表して花澤清隆君が卒業証書を、3カ年精勤賞15人を代表して岩澤康裕君、9カ年精勤賞を横田一裕君が授与されました。

高橋校長から「感謝の気持ちを心の糧として素晴らしい人生をきり開いてください」とあいさつその後、加瀬三恵子さんの涙の答辞に卒業生は涙しました。

卒業生の川野景子さん「苦しかった部活や進路の時、先生にお世話になったことが式の中思い出されました。」また、保護者の方からは「泣けて最後まで式場にいられませんでした。つらい時もよく頑張ったと思います。」と話してくれました。

最後に、青少年相談員の方から花が送られ会場を後にしました。

菜の花に送られ　東陽小

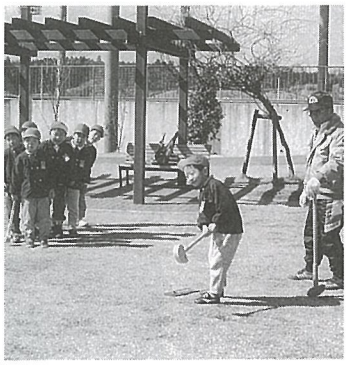
春一番が吹いた3月17日町内4つの小学校で一斉に卒業式が行われました。

東陽小学校では斉藤校長が一人一人に卒業証書を手渡した後、「卒業証書は力いっぱい頑張った汗の結晶です。思いやりの心をもち、人の痛みのわかる心をもってください。」とあいさつがありました。壇上前には菜の花がほころび門出をお祝いしていました。「式の中でいろんなことが思いだされました。」と萩原敬紀くん「6年間早かった。新しい服を買って入学の時送り出した時のことを思い出しました。」と作間内の国分勝秀さんは話してくれました。

ハローつうしん

卒園児がGGで交流

暑い位の最高の陽気となった3月13日、日吉保育園児35人が光スポーツ公園の芝生広場で、篠本3区GG協会のみなさんとGGをしました。地域の方との交流や園児の思い出作りにと小さなスティックを手に張りきってプレーしました。「もっとやりたい。」園児の評判も中々でした。



園児たちは覚えも早い

通信員　越川貞子（篠本3区）

定期的に入定塚（にゅうじょうづか）の清掃

小川台宝蔵寺の住職であった宥照が衆生済度と五穀豊穣を願って入定したと伝えられている入定塚を、3月13日に小川台老人会が清掃を行いました。文化財に指定された平成2年3月から夏・お盆・彼岸の年3回定期的に行っています。

こんもりとした山の中はヒンヤリと寒く、参加者10人は、ほうきや鎌で手早く清掃しました。

通信員　鈴木康子（小川台）